



のアクセス道路として利用している。特に県内車は県道日光・今市線、そして市道768号線を山内駐車場へのバイパスとして、県外車は日光・宇都宮道路、そして市道5号線を国道へのアクセス道路として利用していることがわかる。有料駐車場は県外車が大半を占め、県内車は無料駐車場を利用している。リンク別交通量を変量としてクラスター分析を適用し、利用実態による道路の分類を行い次のような結果を得た。

（図4、図5）

グループ1は県外車が多く駐車場利用率も高くなっている。交通量が多く最も主要な外来交通の幹線道路である。グループ2はグループ1と同型であるが、交通量は少なく外来交通の幹線道路と言える。グループ3は県外車が多く、駐車場利用率は低く通過交通の多い主要幹線道路と言える。グループ4は県外車の割合が大きく駐車場の利用率が高い。日光・宇都宮道路のアクセス道路となっている。グループ5は県内車が多く、駐車場利用率も高く、二社一寺へのアクセス道路となっている。グループ6はグループ5の利用形態に近いが霧降方面の通過があるため駐車場利用率は低くなっている。

次に当研究において昨年行った生活交通の道路利用状況に関する日光市街地住民に対するアンケート調査のデータにリンク別交通量を加え、クラスター分析を適用して道路の機能分類を行った。その結果を総合し以下のような知見を得た。国道は域外からの交通と市民交通の相方で多く利用されている。また市街地ほど内々交通の割合が高く、徒歩交通量が増し買物の利用率が高い。市道5号線、市道48号線及び市道768号線では、外からの自動車交通と域内の通学交通の間で競合が見られる。

5. 結論

外来交通は国道を中心として県内車は県道日光・今市線、市道768号線を国道119号線の迂回路として利用している。

市街地では生活交通の中に外来交通が入り込んでいる状態にある。中心市街地ほど外来交通と生活交通の競合が激しい。

以上のような方法により市街地における自動車交通流動を明確にすると共に各種交通の競合状態を知ることが出来た。今回は市街地の自動車交通流動を中心として調査を行ったが、日光地域の観光交通流動を明確にすると共に市街地において二社一寺を訪れる観光客の歩行者流動を含めて考えていく必要がある。

図4 車による通過交通のグループ別特性

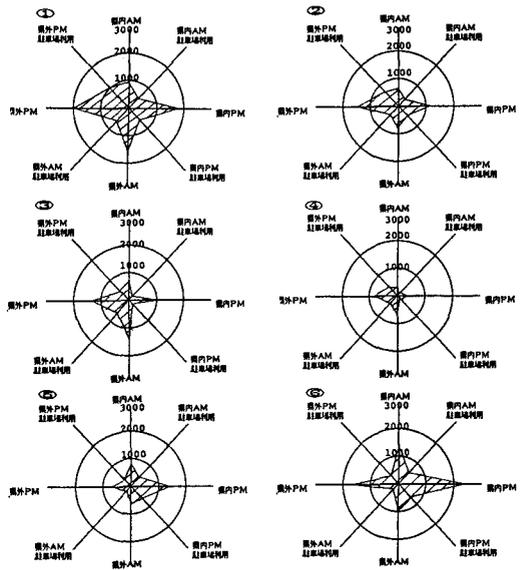


図5 利用実態によるリンクの分類

